

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173700311		
法人名	医療法人社団委会		
事業所名	グループホームねねむ A1ユニット		
所在地	伊達市竹原町28番地3		
自己評価作成日	令和5年2月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0173700311-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様とその家族が安心して過ごせるよう、リモート面会だけでなく衛生管理を徹底した上で直接面会も行っています。
利用者様の状態を常に把握し、かかりつけ医、訪問看護師、理学療法士、歯科衛生士などと連携をとり、利用者様一人一人にあわせた支援を行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路沿いに立ち並ぶ商業施設や公共施設に程近く、且つ静かな住宅街にある開設20年目を迎えた事業所である。建物は周辺の景観に溶け込んでおり植栽や畑も整え、エントランスからつながる玄関は大きなガラス戸仕様で解放感があり、内部も木の温もりある造りである。自治会の清掃やリサイクル活動に参加し住民からお裾分けが届くなど可能な部分で温かい地域との付き合いがなされている。利用開始前の本人が馴染んでいた生活習慣がねねむでも継続できるよう柔軟な介護支援に尽力し、朝食後や就寝前の入浴も可能で利用者は気が向くまま湯に浸かることができ、時々の希望により定刻前にも食膳を整えるなど、新しく入職した職員も驚くほどであるが職員は利用者の当たり前の生活として保証している。感染対策を講じ季節や風情を楽しむドライブを始め、以前親しんでいた学びの発表会鑑賞を叶え笑顔满面で帰設するなど、家族と協力し利用者の今を楽しみたい気持ちに込めている。また、利用開始もない時期は特に家族の面会を乞い馴染みの関係が急に途切れることのないよう利用者の心情に配慮している。数々の熱心で思いやりのある支援は家族にも届いており評価も高い。伝い歩きから歩行器使用で機能が向上し精神面が明るくなったり、嚥下評価を丁寧に実施し食が安定した事例など、医師や理学療法士等の他職種と連携した支援も優れている。対人援助と介護技術の専門性を追求し利用者の自由な暮らしと心の安寧を支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や方針をスタッフルーム・リビングに掲示し、常に意識しながら行動できるようにしている	地域密着型としての社会的役割を示す理念を標榜し、基本方針と共に事業所内要所へ掲げパンフレットに明示している。理念にある、「すべての利用者の生活と心の安寧を守る」の具現化がなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、ねねむ新聞を回覧することで施設や入居者様の様子を知っていただいている。コロナ禍なこともあり催し物の来訪はほぼ無い	町内会祭りや幼稚園児との相互交流は自粛中である。自治会ゴミ拾い活動に職員が参加したり、リサイクル活動の協力、地域住民から野菜やウエスの差し入れがあるなど、地域との良好なつきあいがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて入居者様の状況を報告し、認知症の理解につながるよう努めている。ホームページの更新が再開しInstagramで日常をお伝えしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況、外部評価の結果を報告し、後日職員にも文章にて確認ができるようにしている	運営推進会議は書面にて開催し、今年2月度開催では利用状況報告、現在の新型コロナウイルスの対応、ホームページ更新等を議事録に載せ、意見・質問聴取用の返信用書類を同封して構成メンバーと全家族に送付している。	議事に事故報告、ヒヤリハット、職員の入退職の状況を加えモニターしやすい環境を整えると共に、寄せられた意見等のフィードバックの状況を議事録に充足する事も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、協力関係を築けるよう努めている	市の高齢福祉課とは実地指導や日常の案件で指導や助言を仰ぎ、適正な運営の維持に向け協働関係を築いており、運営推進会議への協力も得られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止対策会議を定期的に行い、事故やヒヤリハットの処置が適切な対応か話し合っている。玄関の施錠は夜間と事務所不在時に行っている。やむを得ず拘束する場合は日付や拘束時間、理由などを詳細に記録するようにしている	身体拘束適正化のための指針の改訂により委員会を「虐待防止・身体拘束廃止委員会」に改称し、事故防止対策会議内にてリスクマネジメントも交え開催している。研修の一例では、身体拘束は自分を映す鏡であるとの学びも行き適切な関わりや支援への意識づけを深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や更衣などの際に怪我や内出血がないか都度確認を行っている。発見した時は原因が介助によるものかご自身でつけてしまったものか職員で話し合い今後の防止に努めている		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解には個人差があるため、施設で研修会を開いたり、個人でも学ぶ努力が必要と思われる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行いながら確認をしていただき、理解と納得を得られるよう努めている。改定時には文章でのお知らせとなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エントランスに意見箱を設置している。また面会や電話で近況をお伝えした際に要望がないか尋ね、その内容を職員で共有し、日ごろのケアにつなげている	利用者の「長生大学の学芸発表会へ行きたい」との要望が叶うよう家族と連携したり、家族からの診療科目に関する相談には関係者に問い合わせを行い返答するなど一つひとつ丁寧にサポートしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案があれば都度話し合いを行い、休みなどで参加できなかった職員には後日報告しつつ、さらに意見などを取り入れている	職員が1年交代で担う6つの係りがあり、運営や業務に積極的に携わっている。管理者へも意見が出しやすい環境にある。主として管理者が職員と面談を行うが事案により法人本部も対応する仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望の休みが取りやすく、有給も少しずつではあるが消化できるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最近リモートで参加できる研修が増え、都度研修案内を職員に提示している。訪問看護師や理学療法士のアドバイスを取り入れ、入居者様一人一人にあったケアを行えるよう話し合い、実践につなげている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での事例検討会や認知症カフェの実施などがあったがコロナの影響で中止している		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い、不安や要望を確認し、希望があればホームを見学していただき雰囲気を感じ取っていただくことで安心感につながるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、不安なことや気にかけてほしいこと、行ってほしいことなどを確認し不安が解消できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の今の状態と入居前の状況把握し、まずは安心して穏やかに過ごすために適切な支援を行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態・能力把握し、できることは可能な限りご自身で行っていただけるよう支援している。タオル畳みや下膳などできそうな家事を手伝っていただいている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リモート面会を実施したり、電話などで近況を伝えるなど共に支えていく関係を築いている。時間制限はあるがアクリル板越しでの面会にも対応している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アクリル板越しでの直接面会やリモート面会や電話などを通じて関係が途切れないようにしている	家族との面会は談話室を提供し落ち着いて話ができる環境を整え、利用者と家族間の電話や手紙の取り次ぎはもとより、ドライブで自宅を見に行ったり、以前親しんでいた学び事に再び触れる機会を家族の協力も得て実現するなど、細やかな支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者様が苦手な方や話すことが不得手な入居者様には職員が間に入るなど、入居者様同士の関係性を把握・共有し少しずつ共同の場に馴染めるよう支援している。仲の良い入居者様同士は近くの席に座れるよう配慮している		

グループホームねむむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も希望があれば相談に応じるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の過ごし方や、職員・他入居者様との会話などから、本人の意向を把握しご自身で選択や決定が行えるよう支援している	家族からの趣味や嗜好の情報や一例では食事での口の開き方で好物を把握するなど、職員は利用者の思いや意向に関心を払っている。内容はその日の申し送りで速やかに情報共有がなされモニタリングや支援に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の家族・友人や入居前に過ごされていた施設関係者から話を聞き、どのような生活を送ってきたのか把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録、連絡ノートを用いて情報を共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望を取り入れつつ、カンファレンス・アセスメント・モニタリングを活用し、適切なケアプランの作成に努めている	課題分析の結果を本人の意向と本人の様子(から捉える)に区分し家族の意見も合わせ総合的な援助方針を示している。医師や歯科衛生士の助言や生活機能向上連携による理学療法士の評価も加え、今後のより良いケアのための介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り・連絡ノートなどを活用し、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば都度対応し、入居者様が満足できるよう心掛けている。外出関係のものはコロナの影響や身体への負担によっては、応じることができないことがあることを説明している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外出はほとんどできず。ホーム駐車場にある桜や近所の花壇を散歩しながら眺めることはできた。普段外出の際は駐車場から目的地までの距離や車椅子が通れる環境であるかを事前に調べている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用している病院にかかったり、内科や泌尿器科は往診があるため、慣れた環境で緊張せずに診察を受けられている	協力医療機関の定期往診の他に、利用者・家族の希望に応じ他医療機関の往診も可能である。協力医療機関歯科の必要時の往診や歯科衛生士による口腔ケア、週に1度の訪問看護、理学療法士の訪問もあり、適切な医療が受けられる支援態勢である。	

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師が訪れるのでその時に相談をしたり職員ではできない処置をしていただいている。診察内容は後日報告書にてユニットに配られる。コロナ禍のため訪問ができない時期もあった。電話での相談にも対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には看護サマリを作成し、既往歴や現病名・認知症の症状や入院に至った経緯を詳しく記入している。また口頭での説明も行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様にとって穏やかな時が過ごせるよう家族やかかりつけ医と話し合い、可能な限り支援が行えるよう取り組んでいる	利用契約時に「重度化及び看取り介護に関する指針」を定め同意を得ている。医師の判断に基づき関係者間で今後の方針を話し合い、移行支援を含め対応している。今後、看取りに関する研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置や緊急時マニュアルを作成し、ほとんどの職員が救命講習を受講しているが、経験は不足しているため、個々の判断力と行動力を向上させる必要がある		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災による避難訓練を実施している。ガスコンロやレトルトの米飯・水など停電時の多少の備えは用意している	令和4年6月に日中想定、10月に夜間想定の方針に基づき避難訓練を実施し、地域協力者への参加依頼は見送っている。災害備蓄品を確保し、自然災害発生時における業務継続計画(BCP)を策定中である。	想定される自然災害発生時におけるシミュレーションや階段使用時の避難誘導方法を全職員が共有できるように取り組みに期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けや対応を行い、不快な思いをさせないよう言葉遣いや声のトーンにも配慮している	利用者1人ひとりの特性に応じ本人が安心できる語調や配慮を持った接遇であり、人生の先輩として敬う気持ちを大切にしたり関わりを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる方にはご自身で決めていただき、難しい方には職員が決めていただきやすいように選択肢を絞る等行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	個人のペースや体調に配慮しつつ、どのような過ごし方を望んでいるのか表情や雰囲気から感じ取ったり、さりげない会話の中から把握できるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類や好みの服を着ていただいたり、理解が難しい方は職員が本人に似合う服をえらんでいただいている。定期的に美容室の訪問がある		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛け行きコップなどを下げていただいたり、できる範囲でテーブルを拭いていただいている。	利用者の好みや管理栄養士のアドバイスを心得て献立し提供している。行事食や誕生日は特に好物が食卓に並び旬の食材も取り入れ利用者に喜ばれている。おはぎ作りや稲荷詰めなど利用者も一緒に作業している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に水分量や食事を記入しすべての職員が一人一人の状態を把握している。アルブミン値が低い入居者様にはプロテインなどの補助食品を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを促している。不十分な方には職員が介助行き清潔を保っている。月に一度、歯科衛生士の指導も受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄をしていただくために、一人一人の排泄パターンを把握している。	利用者の排泄が困難な要因を分析し、適切な排泄支援に努めている。朝食後のトイレ誘導により便失禁が無くなった利用者や深夜に熟睡度を鑑みつつ声かけでトイレ排泄を促すことにより居室内での場所間違いがなくなるなど、羞恥心や不安、不快感を取り除いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳やヨーグルトなどの乳製品をとっていただいている。それでも排便のない方は下剤で対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	焦らすような声かけは行わず、湯船につかるときは入居者様から見えない位置で見守りを行い気を使わせないよう配慮している。湯船につかることに恐怖を感じる方や心臓への負担が大きい方は無理に湯船につからず温かいシャワーでしっかりと温まっていたりしている	入浴は朝食後から就寝前まで、利用者のタイミングや生活習慣等を考慮した支援である。好みの湯加減や同性介助、入浴剤の選択など、個々の希望に即しリラックスしながら入れるよう、また、細かな配慮の元に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の好きな時間に休息をとっていただいているが、誤嚥や窒息防止のため食後1時間は起きていただくよう声掛け等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をファイルにまとめたり、薬箱にも用意してを機いつでもすぐに確認がとれるようにしている。変更があった際には記録や申し送り共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	懐かしい歌謡曲の番組を見たり、新聞が好きな方に新聞を提供したり日々楽しんでいただけよう支援している。子供が好きな入居者様に赤ん坊のお人形を渡すと楽しそうにあやしたりしている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの危険があるためほぼ外出は行っていない。ホーム駐車場にある桜の木を見に行ったり、近所の花壇を眺めたりなど散歩には少しだけ行っている。	天候の良い時期は散歩や事業所前ベンチで日光浴、畑で水やりや収穫をして外気に触れている。ドライブで洞爺湖が見える丘や有珠善光寺の桜や紅葉など季節の風情を味わいに出かけている。道の駅のアイスクリームを人流を見極め戸外で食べる機会も持つなど、可能な外出を通じ生活の質の維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方にはしていただいている。難しい方には職員が支援を行い、お金を手渡して支払いだけしていただくなど行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けたり、はがきを送るための支援を行っている。リモート面会も行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせた飾りつけを行い入居者様が楽しんでいただけるよう工夫したり、冷暖房を調節し快適に過ごせるよう努めている。	共有空間は空調や温湿度に配慮し、利用者の寛ぎ感や生活しやすい空間を整えている。畳敷スペースは家庭的な雰囲気を醸し出し、ソファや椅子の配置を工夫し他者との距離感など個々の居場所作りへの配慮がある。行事の記念写真や季節の飾り、カレンダーや日めくりを掲示している。兎を飼育しているユニットもあり利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやエントランスに椅子やテーブルを配置し、好きな場所で過ごせるよう配慮している。一人で過ごしたい方には共用テーブルやソファから少し離れた場所に一人用のリクライニングチェアを提供している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた馴染みの家具や寝具を使用していただき、穏やかに過ごせる空間になるように配慮している	居室入り口に表札と飾りをつけ見当識への配慮がある。ベッド、カーテン、照明器具の備えつけがあり、馴染みの家具やテレビ、小型冷蔵庫などを持ち込んでいる利用者や家族写真、愛着のある品々を飾っている居室もある。個々の状態に合わせ安心できる設えを整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、トイレや浴室には手すりを備え付けている。居室やトイレなどには目印がついていて分かりやすいようになっている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173700311		
法人名	医療法人社団委会		
事業所名	グループホームねねむ A2ユニット		
所在地	伊達市竹原町28番地3		
自己評価作成日	令和5年1月31日	評価結果市町村受理日	令和5年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者一人ひとりが生き生きと生活し、力を発揮できるように職員は支援している。スタッフは入居者様同士の信頼関係や馴染みの関係を大事にしており、ともに理解しあい、支えあえるような機会を作っている。 法人病院や協力医療機関、歯科衛生士、栄養士などの連携を継続し日々の健康管理を徹底している。終末期ケア、看取りを希望される方には専門医を紹介、連携している。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0173700311-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (A2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビング、スタッフルームに理念・方針を提示し、実践につなげられるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内のごみ拾いに参加。またインスタグラムに日々の様子や活動を投稿している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営促進会議で利用者の状態を報告し、認知症の理解につなげている。ホームページを開設している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、外部評価などの報告をしている。会議内容は職員が共有して、意見を運営に取り入れている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者は運営推進会議や避難訓練に参加して頂き、その都度相談できるような関係作りに努めていたが、コロナ禍のため、地域の方との避難訓練などの協力ができない状態にある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止対策会議で事故報告書を検討し、適切なケアがされるように取り組んでいる。玄関の施錠は防犯上、事務所のスタッフが不在の場合と、夜間のみ行っている。転倒などは、個々の生活パターンを把握し防止している。ベッドから転落してしまう恐れのある方には、布団に寝て頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待対応支援マニュアルをスタッフルームに設置している。スタッフ全員が虐待防止に関する知識を深め日々話し合いながら、ケアをしている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (A2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援や青年後見人制度について、理解を深める必要がある。権利擁護制度を利用している方がいないので、資料の確認で終了している。、知識が浅いので、研修に参加するなどの機会を増やしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書を提示して説明を行い、十分に理解、納得して頂けるように努めている。改定時には、その都度、文章に提示し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ポストや相談窓口を設置し、外部にも表出できるようにしている。面会の時の意見や要望は、スタッフ間で話し合いケア反映できるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	都度、話し合いの機会を作ったり、会議にこだわらず、日頃から意見を述べる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい労働環境、条件を整備している。処遇改善手当を勤務年数、実績に応じて支給されている。シフトは、個々の希望を聞き、できるだけ調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加の呼びかけをし、機会を作っている。コロナ禍なので、zoomでの研修にも参加しているが、機会が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設と、電話でコロナ対応について相談しあう機会があったが、相互訪問の機会はない。研修もコロナ禍で少なかったが、少人数での研修に参加する機会があった。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (A2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、見学、面談を行う事で、不安な事などをお聞きして、入居後の生活を安心して行えるように、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来ていただき、ホームの様子を見ていただいている。入居に関して、不安な事、ご要望など、お聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談で、状況の把握につとめ、その方にあったサービスを提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士で話をしたり、ともに作業する機会を作っている。時にはスタッフが橋渡してコミュニケーションをしやすくなるようにしている。スタッフと一緒に家事などを行い、協力しあっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍なので、利用者様の状況を伝えたり、電話で日頃の様子を伝えたり、ケアについて話しあっている。受診は家族も同行していただく機会を作っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親せきとの手紙のやり取りができるように、手紙を書くのを手伝ったり、代筆しており、大事にしてきた関係性が途切れないように支援している。長年手入れしてきたご自宅の庭を定期的に見に行く機会を作っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、協力しあい、家事を行えるように支援している。それぞれの入居者様が、得意な事、できる事を和気あいあい行い、その中で信頼関係の構築ができるような雰囲気作りをしている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (A2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された場合でも、必要に応じて、手紙や電話で状況をお聞きし、相談、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子や会話の中での思いや意向を、スタッフ間で共有し、ケアプランに落とし込んでいる。又、ご家族の意向や想いをお聞きして、ケアプランを作成している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族がご面会に来た時などに、本人のこれまでの生活の仕方やエピソードなどをお聞きし、これまでの暮らし方を把握している。センター方式を取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、スタッフ間で共有している。必要に応じて、課題分析シートを作成しニーズを打ち出している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成の際や、面会時にご家族にお手紙で意向をお聞きしている。ケアプラン作成時、担当者会議を開催している。各スタッフの意見やモニタリングでの気づきを取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はタブレットで管理しており、ケアプラン、日々の様子、身体状況などに分けて記入し、職員間で情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや、入院時、退院時の用意など、ご家族の事情により、できない時には施設で行っている。必要に応じて、季節の衣替えや衣類の購入の代行を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営促進会議を地域の方に担って頂いている。コロナ感染症のため、今年は来ていただけなかったが、避難訓練に自治会の方にも参加していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な内科の訪問診療、必要に応じて歯科訪問診療によって健康管理に取り組んでいる。整形、眼科など専門医への通院も、スタッフが付き添い支援を行っている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (A2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が定期的に来訪している。その際、様子や体調の変化などスタッフが伝えている。又、コロナ禍なので、感染予防や体調の変化など電話で相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時には、主治医やケースワーカー、病棟の看護師と情報交換する中で良好な関係を築けるように努力している。退院後の受け入れ体制は柔軟に対応するようにつとめており、退院後も体調について相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族、主治医と相談し、ご本人にとって良い終末期の過ごし方について、日々話し合っている。重度化、看取りに関する指針を入居時に説明させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがある。コロナマニュアルをユニットで作成し判断に迷う時には、ユニット長管理者に電話で相談できる体制になっている。ガウンの着脱の方法を周知している。救命救急の講習はコロナ禍で参加出来ていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は昼間、夜間想定で実施している。自治会の方にも協力して頂いている。2階にユニットがあるので、足の悪い方車いすの方が安全に避難できるように個別の介助方法を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意思の疎通が難しい方には利用者様の理解度に合わせて言葉がけをしている。又その方にとって心地よいと思える声のトーンや距離感で話しかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの判断ではなく、ご本人に意志を確認して決定できるようにしている。歯磨きや整容、入浴についても、本人のペースやタイミングで行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた起床時間や食事の好みなどできる限り対応している。レク活動は参加したい時に、本人の判断で参加して頂いている。できるだけ行いたい事を行えるように本人のやりたい事をレク活動に取り入れている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類の交換は家族に協力していただいている。その方の好みにあった髪型にできるように、訪問美容室の方に伝えられるように手助けしている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (A2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いて食事のメニューに取り入れている。誕生日にはその方の食べたいものを作るなどしている。野菜を切ったり下ごしらえ、配膳などそれぞれに得意な事を行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好嚥下の状態に合わせた食事形態にしており、ミキサー食の方は彩りやを考えた盛り付けをしている。食事量の低下がみられる場合は、栄養補助食品で補えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は行っていただいている。介助の必要な方は介助している。拒否のある方もいるので、無理にはせずに、本人に必要な性を説明し、納得していただき介助させていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し誘導を行う事で、できるだけトイレでの排泄をできるようにしている。夜間は本人の希望によりポータブルトイレを設置している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫をおこなっているが、機能低下にて排泄が困難な場合は、腹部マッサージや、坐薬、下剤などその方にあつた対応をを主治医や看護師と相談しながら決めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	本人の望まない時には、無理にはすすめず変更を行っている。その日の体調や気分に合わせて、入浴できるように配慮している。夜や朝早くの時間帯でも、できるだけ対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調にあわせ、いつでも臥床できるようにしている。就寝、起床時間は本人のペースに合わせている。夜間眠れない時には、リビングで休息して頂き、眠たくなったタイミングで居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服時は二名で確認している。処方箋はスタッフ間で共有していて、副作用、用法、量について把握している。体調の変化したときには医師に伝え、服薬について相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸や新聞購読、創作活動、動物の飼育など、様々な事ができるようにしている。家事活動も毎日行っていて、気分転換できている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (A2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出等が制限されていたが、ドライブや施設周辺を散歩することができた。地域の方との関わりはコロナ禍により出来なかった。本人の希望を聞き、人混みをさけながら、行きたいところにドライブに出かけるなどしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う事ができる方は、スタッフが付き添い買い物に出かけている。お金を使う事が家族がご本人にお金を預けてくれて所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話ができるようにしている。携帯電話が使える方は使用している。手紙は代筆や読み上げが必要な方にはお手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調整を行ったり、花や観葉植物、創作物を飾っている。季節によって創作物を飾り替えて、季節感を味わえるようにしている。小鳥をリビングで飼育しており、小鳥のさえずりを聞けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の置き位置は景色を眺められたり、気の合う方同士と一緒に過ごせるように3箇所ソファを配置しており、それぞれに落ち着く場所を選んで座っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気になるように、写真やカレンダー、観葉植物、暖簾、鏡台などを置いている。本人が落ち着くようにご家族と一緒に考えている。自室での転倒のリスクのある方には、家具を伝って歩行できるように配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりがついている。車いすを自走できるように、スペースに配慮している。わかりやすいようにトイレ、浴室、各居室には表札がついている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173700311		
法人名	医療法人社団委会		
事業所名	グループホームねねむ Bユニット		
所在地	伊達市竹原町28番地3		
自己評価作成日	令和5年2月2日	評価結果市町村受理日	令和5年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人自分らしさを持ちつつ、行き来と生活できるよう支援支援している。できることは地震でできるよう支援し、症状の進行や機能低下等変化が見られたら職員間で話し合い、支援方法を検討し見直しを行っている。
法人病院や協力医療機関、歯科衛生士と連携し日々の状態把握に努め健康管理を行っている。利用者の状態について、利用者家族とこまめに連絡し家族の協力を得ている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyoCd=0173700311-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングやスタッフルーム、玄関等常に目に入るところに理念、基本方針を提示しており、意識することで実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会のごみ拾いに参加また広報用にホームページよりInstagramの閲覧できるようにし日々の様子を投稿している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で利用者の状況を報告したり、施設ホームページやInstagramを活用し日ごろの活動の様子をわかるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為書面開催だが、利用者の状況を報告し、内容は職員間で共有し現場に生かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為書面開催で報告し、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止会議を行い、各ユニットから事故報告を検討し適切なケアがされるよう職員一人一人が意識し取り組んでいる。また夜間、事務所不在時のみ安全、防犯の為玄関の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルをリビング、スタッフルームに掲示している。また事故防止会議を月1回程度開催し情報共有している。日ごろから身体に傷や変色がないか観察し、変化があった場合は報告している。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての理解は各職員によって差があり、研修等学びの場を設け理解度を高める必要がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書を説明、確認し十分に理解、納得していただけるよう努めている。改定時には文章にてその都度お知らせしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ボックスの設置、面会の際の意見や要望は職員間で情報を共有している。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを行い、職員同士で話し合うことができ、一人一人が意見を述べるができるようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	変形労働制について理解し、就業時間の管理に努めている。また資格取得、スキルアップができるよう職員全体で協力している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加の呼びかけをし機会の確保を行っている。適切なケア方法はカンファレンスで話し合っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近郊グループホームとの研修会で学びあいサービス向上につなげていたがコロナ禍により今はできていない。			

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い、本人や家族から要望や不安等を聞き取り、入居後安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設内見学、面談を行い不安なこと、要望等を聞き取り、入居後の不満につながらないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談時に生活歴や本人の状態把握をし、入居後のサービス提供に生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に家事活動をおこなったり、会話しながら良い関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や電話で利用者様の状態を伝えたりし、病院の付き添いや散歩等お願いしとにも支えていける関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室等に行けるよう支援していたがコロナ禍になり外出はほとんどできていない。電話や手紙でやり取りできるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の性格や状態を把握し、それぞれに合った関りや交流ができるよう支援している。レクや一緒にお茶を飲んだりし利用者同士が良い関係を築けるよう支援している。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した際はご家族との連絡を取り合っている。ご本人や家族から要望や相談があればお受けしフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の話を傾聴し、思いや意向を交友できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族から今までの生活の様子を聞き、職員間で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録で状態を把握し、職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族から電話や面会に来られた際に要望を聞き、モニタリングをもとにカンファレンスを行い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や申し送り、連絡ノートを使用し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況、状態に合わせ柔軟な対応、支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出先の状況、車いす対応できるか調べて外出していたがコロナ禍で外出機会がなくなってしまった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診したり、周囲階位の訪問診療の際に体調、状態の変化を報告している。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人から定期的に訪問看護師が来ており、状態の報告、相談を行い指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先へ介護経過や認知症の症状の特徴、ADLを報告し治療がスムーズに行えるよう努めている。また退院後の対応についても相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用医者、家族の意向を伺いながらかかりつけ医に相談し、利用者にとって良い終末期を過ごせるよう考え支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や緊急時マニュアルを作成している。判断に迷う場合はユニット長、管理者に連絡相談し確認している。また職員は救命講習を受講しておりAEDwお設置し使用できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定避難訓練を行っているがコロナ禍の為地域住民の参加はできていない。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意思疎通が難しい方もいるため一人一人に合わせた言葉かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のニーズを見極め、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせて起床、就寝、食事提供を決め体調、様子変化を観察しその時独に合った生活支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を整えたり、季節に合わせた服装ができる言う支援している。定期的に訪問理美容にて散髪、顔そり、パーマをできるようにしている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に台所に立ち盛り付けや後片付け等行っていただいている。季節のものや行事食等変化をつけながら楽しんでいただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量は記録し、その方に合った形態で提供して必要な時には栄養補助食品も使用している。また定期的に法人内の管理栄養士の評価を受け検討、改善している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一度、歯科衛生士による王空ケア指導を受けており、口腔内の状態を把握し異常があれば訪問歯科にて治療していただいている。毎食後口腔ケアの声掛けを行い義歯洗浄等支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄は記録し利用者の排泄パターンの把握に努め、自身でトイレ通所できない方は声掛けを行いトイレ誘導をしている。必要に応じてリハビリパンツ、尿取りパットを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔や形状、量を記録し水分摂取量に注意し朝食時の牛乳、夕食時にはヨーグルトを提供している。また機能低下により排便困難になった場合は必要に応じ下剤の使用をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回以上入浴できるよう支援し利用者の体調や希望を考慮し入浴できるようにしている。自身で入浴出来ない方は介助で入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考慮し、午前中臥床していただいたり自室にて休むことをしている。また居室内の室温に注意し希望があれば電気毛布、湯たんぼ等支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬情報はファイルにまとめいつでも確認できるようにしている。また内服の際には職員2名で確認し内服していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や趣味を考慮し塗り絵や書道、編み物等出来るように支援している。また本人、家族からし好品を聞き取りし提供している。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前は買い物、ドライブ等へ出かけることができていたが現在はほぼできていない状況です。季節によっては施設周辺の散歩、外気浴をしていただき気分転換ができるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理できる方はしていただいているが現在当ユニットでは地震で管理できる方はおらず事務所にて預かっている。また現在買い物外出ができないため職員が希望するものを代わって購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は自由に使用し、希望があればはがき等を用意し送ることができる。また帰宅願望等不安な気持ちになられた方には家族に電話し話し安心していただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面の飾りつけをしたり入居者様の写真を飾り付けたりしている。ソファーや畳等自由に使用でき好きな場所で過ごせるようにしている。その際室内温度に注意し気持ちよく過ごせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エントランスに椅子を設置し外を眺めることができたり気の合う利用者同士ソファーに座りテレビを見たりし談笑できるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等馴染みのあるものを使用し居心地の良い空間づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前に表札をつけ、廊下、トイレ等手すりを設置し自身で自由に移動ができるよう見守り支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームねねむ

作成日：令和 5年 3月 10日

市町村受理日：令和 5年 3月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	議事に事故報告、ヒヤリハット報告、職員の入退職を掲載していない。また意見書の結果が掲載されていない。	議事に事故報告、ヒヤリハット報告、職員の入退職、意見書結果を運営推進会議の議事録に掲載する。	運営推進会議議事録への掲載を行う。	1か月
2	35	2階から1階への階段を使う避難(歩行状態が悪い方)が訓練が出来ていない	2階から1階への避難のシミュレーションを行う。	2階から1階への避難のシミュレーションを行い避難方法の再検討を行う。また職員が入居者役になり階段を使い2階から1階へ搬送する訓練を行ってみる。	3か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。